

## お知らせ

### 会員各位

会員各位からの投票に基づき、下記の方々を2026~2027年度代議員として選任いたしました。「公益社団法人日本分析化学会 代議員選挙規則」第10条に基づき公告します(代議員選挙規則 第10条 会長は、選任した代議員を、すみやかに本会会誌に公告しなければならない)。

会長 山本博之

青木 寛(産 総 研)	旭井 由紀(富士フィルム和光純薬)	浅岡 聡(広島大院統合生命科学)
浅川 樹子(島津製作所)	壹岐 伸彦(東北大院環境)	井倉 則之(九大院農)
石田 康行(中部大応用生物)	石濱 泰(京大院薬)	板橋 大輔(日本製鉄)
稲川 有徳(宇都宮大工)	植田 郁生(山梨大工)	上野 貢生(北大院理)
内村 智博(福井大工)	梅木 辰也(佐賀大理工)	梅村 知也(東薬大生命科学)
江坂 幸宏(岐阜薬大薬)	江藤真由美(大分大理工)	遠藤 昌敏(山形大院理工)
岡村 浩之(原子力機構)	岡本 力(日本製鉄)	小熊 幸一((元)千葉大工)
越智 一志(住友金属鉱山)	恩田 健(九大院理)	加賀谷重浩(富山大工)
勝又 啓一(製品評価技術基盤機構)	金澤 秀子(慶應義塾大)	金子 聡(三重大工)
川崎 英也(関西大化学生命工)	神崎 亮(鹿児島大院理工)	岸川 直哉(長崎大院医歯薬学総合)
北川 文彦(弘前大院理工)	吉川ひとみ(科 警 研)	木村-須田廣美(千歳科技大)
紀本 岳志(紀本電子)	金 継業(信州大理工)	熊谷 礼子(DOWAテクノリサーチ)
倉光 英樹(富山大理工)	桑原 直子(新潟薬大)	小谷 明(大阪医薬大薬)
齋藤凜太郎(ジエールサイエンス)	坂入 正敏(北大院工)	坂元 秀之(日立ハイテクアナリシス)
座古 保(愛媛大院理工)	佐藤 久(北大院工)	澤津橋徹哉(三菱重工業)
椎木 弘(阪公大院工)	四宮 一総(日大生産工)	渋川 雅美(埼玉大院理工)
白井 理(京大院農)	末吉 健志(北里大理工)	鈴木 哲也(日鉄テクノロジ)
諏訪 雅頼(阪大院理)	宗林 由樹(京大化研)	高橋 秀明(東レリサーチセンター)
高橋由紀子(長岡技科大)	高橋 豊(フレッパス/EMSソリューションズ)	武居 尚英(三菱ケミカル)
田中 佑樹(千葉大院薬)	田村 耕平(日本分光)	辻 幸一(阪公大院工)
角田 欣一((元)群馬大理工)	壺井 基裕(関学大生命環境)	坪井 泰之(阪公大理工)
津村 徹(トクヤマ)	轟木堅一郎(静岡県大薬)	豊田 太郎(東大総合文化)
永井 秀典(産 総 研)	仲川 清隆(東北大院農)	永嶋 仁(JFEテクノリサーチ)
永谷 広久(金沢大理工)	中村 圭介(産 総 研)	中村 洋(東 理 大)
中山 紀行(レゾナック)	西 直哉(京大院工)	西 博行(安田女子大薬)
西尾 友志(堀場アドバンスドテクノ)	西垣 敦子(東邦大理工)	西澤 精一(東北大院理)
西村 一彦(北海道立衛生研)	西山 徹男(アジレント・テクノロジー)	丹羽 修(埼玉工大名誉教授)
丹羽 啓誌(東海技術センター)	沼子 千弥(千葉大院理)	萩森 政頼(武庫川女子大薬)
長谷川 浩(金沢大理工)	林 英男(都産技研センター)	巴山 忠(福岡大薬)
半田友衣子(埼玉大院理工)	久本 秀明(阪公大院工)	火原 彰秀(東科大院理)
藤井 健太(山口大院創成科学)	藤浪 真紀(上智大理工)	藤村 務(東北医薬大薬)
古庄 義明(ジエールサイエンス)	堀池 則子(旭化成)	本田 俊哉(日立製作所)
水口 仁志(徳島大院社会産業理工)	南 豪(東大生産技術研)	三原 義広(北海道科大薬)
望月 直樹((元)横浜薬大)	森 健(九大院工)	森田耕太郎(東邦大理工)
森本 稔(鳥取大研究推進機構)	矢嶋 摂子(和歌山大システム工)	安井 孝志(名工大生命・応用化学)
安川 智之(兵庫県大院理)	山田 公美(住友化学)	山本 孝(徳島大院社会産業理工)
山本 雅博(甲南大理工)	由井 宏治(東理大理工)	横山 崇(岡山理大理工)
李 宣和(東北大院薬)	渡辺 壺(フロンティア・ラボ)	渡邊 俊哉(日立ハイテク)

## 公益社団法人日本分析化学会 第15回定時総会開催のお知らせ

公益社団法人日本分析化学会  
会長 山本 博之

公益社団法人日本分析化学会定款第17条に基づき、第15回定時総会を下記のとおり開催いたします。本会は代議員制を採用しており、代議員をもって法律上の社員としておりますので、代議員以外の会員の方々には議決権はありませんが、定時総会に出席して意見を述べるすることができます。今回はWeb会議方式で開催しますので、ご出席くださいますようお願い申し上げます。

なお、ご出席の場合は、e-mailにて、会員氏名、会員番号、連絡先（住所、e-mailアドレス）を明記のうえ、4月3日（金）までに下記問い合わせ先にお送りください。

### 第15回定時総会

期日 2026年4月24日（金）14時～16時

会場 Web会議（日本分析化学会会議室）

議案

1. 2025年度事業報告および決算報告承認の件
2. 役員の一部辞任および2026～2027年度役員承認の件
3. 定款の一部変更承認の件
4. 永年会員推薦承認の件
5. 2026年度事業計画および収支予算報告の件

問合せ先（公社）日本分析化学会総務課

[E-mail: shomu@jsac.or.jp]

## 日本分析化学会第75年会

### オンライン講演申込

日本分析化学会第75年会は下記のように開催します。本年会では日本分析化学会用にカスタマイズされたオンライン登録システム（Web）を使用します。講演募集記事は本誌5月号の「お知らせ」欄に掲載の予定です。なお、4月号にも簡略版に掲載の予定です。

本年会の講演申込および講演要旨入力はすべてオンライン（Web）上から申込者が行う形式です。講演申込のスケジュールは下記を予定しております。

講演要旨集はWeb上での電子配布といたします。講演要旨は1講演A4版1頁です。詳細は本誌5月号および年会ホームページ（4月中旬に公開予定）でお知らせいたします。

記

期日 2026年9月15日（火）～17日（木）（通常と曜日が異なりますので、ご注意ください）

会場 東北大学青葉山新キャンパス〔仙台市青葉区荒巻字青葉468-1〕

講演申込開始 4月28日（火）予定

講演申込締切 6月3日（水）

要旨本文締切 7月8日（水）

参加登録費 予約：会員12,000円、学生会員4,000円、会員外24,000円、会員外学生9,500円〔当日：会員15,000円、学生会員6,000円、会員外27,000円、会員外学生11,500円〕

懇親会参加費 予約：一般10,000円、学生4,000円〔当日：一般12,000円、学生5,000円〕

日本分析化学会ホームページ <https://www.jsac.jp>

## 2026年度CERIクロマトグラフィー分析賞 受賞候補者の推薦

液体クロマトグラフィー（LC）研究懇談会（以下、LC懇）は、2026年度のCERIクロマトグラフィー分析賞受賞候補者の推薦を受け付けます。LC懇会員で、標記候補者の推薦を希望される方は、下記の規程（抜粋）を参照のうえ、推薦資料提出先にお申し出ください。受賞者には、LC懇の電子ジャーナル「LCとLC/MSの知恵」（通巻第13号、2026年12月15日発行予定）への業績投稿とともに、第32回LC&LC/MSテクノプラザ（2027年1月を予定）での受賞講演を行っていただきます。

第1条 本賞は、LCを利用した研究分野で優秀な研究成果を挙げた者を対象に、年1件以内に授与する。

第3条 受賞者の資格に年齢は問わないが、LC懇の会員であることが望ましい。

また、受賞者の研究成果は、既印刷のもので、少なくともその一部が（公社）日本分析化学会の機関誌もしくは学術刊行物に掲載されたものであることを要する。

第7条 賞の授与は、LC&LC/MSテクノプラザにおいて行う。受賞者には、賞牌および賞金（10万円）を授与する。

**提出資料** 推薦者（会員番号明記）は、A4判サイズに横書きで記入した以下の4種類の資料（各1通）を1ファイルにまとめ、2026年8月末日までに下記提出先に電子メールで送付する。①候補者の生年月日および高校卒業以後の履歴書、②推薦理由書、③研究業績名（40字以内）およびその概要、④研究業績リスト：表題、全著者名（受賞候補者にアンダーライン）、雑誌名、巻数、掲載ページ数、掲載年をこの順に記載したもの、⑤その他、適当と思われる資料（1件）を提出してもよい。

**推薦資料提出先** CERIクロマトグラフィー分析賞係

[E-mail: nakamura@jsac.or.jp]

## 2026年液体クロマトグラフィー 科学遺産候補の推薦

LC研究懇談会会員で、LC科学遺産認定候補の推薦を希望される方は、下記の規程（抜粋）およびLC研究懇談会ホームページを参照のうえ、2026年8月末日までに推薦書類を提出先にお送りください。なお、認定が決定されたLC科学遺産については、LC懇の電子ジャーナル「LCとLC/MSの知恵」通巻第13号（2026年12月15日発行予定）への投稿とともに、第32回LC&LC/MSテクノプラザ（2027年1～2月を予定）において受賞業績の概要発表をしていただきます。

第2条 「液体クロマトグラフィー科学遺産」とは、日本における液体クロマトグラフィー（LC）の発展にとって、歴史的な観点から顕著な貢献があったと認められるものを指す。

2 「液体クロマトグラフィー科学遺産」は、年度ごとに1件以内を認定する。

3 装置・器具類においては、その動作原理が日本初もしくはそれに準じたものであること、またはその性能が従来のものより格段に優れていることを要する。

4 技術・方法においては、従来のものより効率、再現性、操作性などが格段に優れていることを要する。

5 無形遺産については、当該分野の維持・発展におい

て顕著な社会的あるいは歴史的貢献と認定されるもの。

**推薦書類** A4判スペースに横書きで記入した以下の書類（各1通）を、1ファイルにまとめたもの。①推薦理由書（LC懇会員番号明記）、②LC科学遺産候補の名称（40字以内）とその概要、③LC科学遺産所有者名、④その他、適当と思われる資料（1件）を提出してもよい。

**提出先** LC科学遺産認定委員会  
[E-mail: nakamura@jsac.or.jp]

## 2027年液体クロマトグラフィー 努力賞候補者推薦について

本賞は、液体クロマトグラフィー（LC）研究懇談会（以下、LC懇）が授与する褒賞で、LCに関する研究・技術が独創的であり、将来を期待される研究者・技術者を授賞の対象としております。適当な候補者がおられましたら、下記要領にてご推薦またはご応募ください。受賞者には第32回LC & LC/MSテクノプラザ（2027年1月を予定）における受賞講演、ならびにLC懇の電子ジャーナル「LCとLC/MSの知恵」（通巻第13号、2026年12月15日発行予定）への業績投稿を行っていただきます。不明な点は下記にお問い合わせください。

**受賞資格** LC懇の個人会員（会員番号明記）で、2027年4月1日現在で満50歳程度まで。

**提出資料** 以下の①～③を1ファイルにまとめ、下記提出先に電子メールで添付。①推薦書または自薦書（A4判1枚に生年月日、履歴、受賞の対象となる研究題目）、②推薦または応募理由書（A4判を縦に使用し、1行45字、40行程度で業績説明と主要論文リストを合わせて3枚以内）、③説明資料1件（任意。特に重要な論文の別刷PDF、その他審査の参考となる資料等）。

**推薦・応募締切** 2026年8月末日

**提出・問合せ先**（公社）日本分析化学会・LC懇  
[E-mail: nakamura@jsac.or.jp]

## 2026年 POTY 賞受賞候補者の推薦

液体クロマトグラフィー（LC）研究懇談会（以下、LC懇）は、2026年 POTY（Person of The Year）賞受賞候補者の推薦を受け付けます。POTY賞はLC懇の発展に大きく貢献した者に授与しますが（副賞1万円、年度1件以内）、CERIクロマトグラフィー分析賞または液体クロマトグラフィー努力賞を既に受賞した方は授与の対象とはしません。推薦を希望される方は、下記1.と2.に留意され、資料を電子ファイル（1ファイル）で提出してください。なお、受賞者にはLC懇の電子ジャーナル「LCとLC/MSの知恵」（通巻第13号、2026年12月15日発行予定）への投稿とともに、第32回LC & LC/MSテクノプラザ（2027年1月を予定）において受賞講演を行っていただきます。

1. 受賞者の年齢は問わないが、LC研究懇談会の会員であることが望ましい。
2. 推薦者（または自薦者）は、LC研究懇談会の個人会員とする。

**提出資料** 推薦者等は、A4判サイズに横書きで記入した以下の①～③の資料を、2026年8月末日までに下記提出先に電子メールで送付してください。①履歴書（生年月日、現住

所、勤務先と連絡先、高校卒業以後の履歴を含む）、②推薦理由書、③貢献業績名（40字以内）およびその概要。

**資料提出先** LC懇 POTY賞係 [E-mail: nakamura@jsac.or.jp]

## 2026年度啓育指導賞受賞者募集

このたび、液体クロマトグラフィー（LC）研究懇談会では、昨年創設した啓育指導賞の受賞者を2026年度も募集いたします。本賞の性格、受賞者の資格、推薦などは「啓育指導賞授賞規定」（抜粋）により、以下のように定められております。

第2条（本賞の性格）LC研究者の啓育指導とLC研究懇談会の発展に、大きく貢献した者に授与する。

第3条（受賞者の資格）年齢は問わないが、LC研究懇談会の個人会員であることを要する。

第5条（受賞候補者の推薦）推薦者は、LC研究懇談会の個人会員とする。

第7条（賞の授与）LC & LC/MSテクノプラザにおいて行い、受賞者には賞牌および副賞1万円を授与する。

つきましては、受賞候補者の推薦（自薦を含む）を希望される方は、推薦理由および候補者の略歴を含む推薦書（1ファイル）を下記送付先宛てに電子メールでお送りください。なお、受賞者には電子ジャーナル「LCとLC/MSの知恵」通巻第13号（2026年12月15日発行予定）に業績の紹介をお願いいたします。

**送付先** LC研究懇談会 [E-mail: nakamura@jsac.or.jp]

**応募締切** 8月31日（月）17時

## 2026年度「ぶんせき講習会」（基礎編その1）

「分析における統計手法

～統計の基礎と統計手法の実際について～

**主催**（公社）日本分析化学会近畿支部、近畿分析技術研究懇談会

**協賛**（公社）化学工学会関西支部、（一社）近畿化学協会、（公社）日本化学会近畿支部、（公社）有機合成化学協会関西支部、（公社）高分子学会関西支部、（一社）日本鉄鋼協会、（公社）日本金属学会関西支部、関西分析研究会

近年の分析機器は高性能化が進み、その操作は簡便化しています。このため初心者でも測定が容易となった反面、分析機器がブラックボックス化し、コンピュータ処理された数値として測定データが出力されることが多いため、その値が意味あるものかを吟味することや有効数字を考慮することが少なくなったように見受けられます。

そこで本講習会では、主に分析初心者および統計に関して再度学習したい方を対象に、分析化学の基礎である「有効数字、測定データの統計処理」の講義と演習を企画しました。これにより統計に関する基礎を習得できます。

**期日** 2026年5月15日（金）9.30～16.50

（受付9.00～）

**会場** 大阪公立大学 I-site なんば+オンライン（Zoom）〔大阪市浪速区敷津東2-1-41

<https://www.omu.ac.jp/isite/access/>〕

**講習内容** 統計に関する基礎的な演習と講義

**対象者** これから分析化学に携わる初心者（新入社員あるいは研究室配属直後の学生）や「有効数字、測定データの統計処理」を学び直したい方

## 講習プログラム

本講習会の開催にあたって (9.30~9.40)

1. データ取扱いの初歩—計測と有効数字— (9.40~10.30)  
(兵庫県大院理) 磯崎勇志
2. 繰り返しデータの統計の基礎—誤差と信頼区間—  
(10.45~11.45)  
(京大院工) 横山悠子
3. 各種検定の考え方と実際 (13.15~14.45)  
(神大院海) 貝野友祐
4. 最小二乗法によるデータ解析 (15.00~16.20)  
(高エネ研) 武智英明
5. 終わりの挨拶アンケート回答・回収 (16.20~16.50)

\*参加者には事前に電子メールにてPDF資料(当日のテキストと演習問題を含む)のダウンロード方法に関する案内および受講方法の詳細を記したメールを送付します。

\*演習問題は、当日に講師が講習にて解答を解説します。

\*演習問題では、関数電卓を使用いたしますので、各自でご用意ください。なお、書籍「実験データを正しく扱うために」(化学同人)を参考図書としています。

**申込締切** 4月24日(金)、定員(現地50名、オンライン100名)。お申込受付は先着順とし、定員になり次第締め切ります。

**参加費** 主催・協賛団体所属会員6,000円、学生2,500円、会員外10,000円

**申込方法** 参加を希望される方は、近畿支部HP <http://www.bunkin.org/> から本講習会のページに入ってください、【参加申込フォーム】にてWebからお申し込みください。

\*お申込み後、自動返信メールが届きましたら、開催日までに参加費のお支払いをお願いいたします。参加費は銀行口座(りそな銀行御堂筋支店 普通預金 No.2340726、名義:公益社団法人日本分析化学会近畿支部)にお振り込みください。

**申込先** 〒550-0004 大阪市西区朝本町1-8-4 大阪科学技術センター6階 (公社)日本分析化学会近畿支部 [電話:06-6441-5531, FAX:06-6443-6685, E-mail:mail@bunkin.org, 近畿支部HP:<http://www.bunkin.org/>]

**問合せ先** 諏訪雅頼 (大阪大学)

[E-mail:msuwa@chem.sci.osaka-u.ac.jp]

## 第25回生涯分析談話会へのお誘い

主催 生涯分析談話会

協賛 LC研究懇談会

第86回分析化学討論会実行委員会(高椋利幸実行委員長)のご配慮により、標記談話会恒例の講演会を討論会の前日に以下の要領で開催できることとなりました。

**日時** 2026年5月29日(金)16時~17時

**場所** 久留米シティプラザ(第86回分析化学討論会の開催場所)4階小会議室

**講師** 山口政俊先生(福岡大学名誉学長)

**講演題目** 薬学領域における分析化学の課題(仮)

**情報交換会** 18時から焼鳥心(こころ)(久留米シティプラザから徒歩2分)にて〔福岡県久留米市六ツ門町22-5〕。

**参加費** 5,000円(予定)

**参加申込締切** 5月1日(金)

詳細が分かり次第、LC研究懇談会ホームページ(<https://www.lckon.org/>)に随時掲載しますので、下記の現地世話人または全国幹事宛に奮ってメールでお申し込みください。

**生涯分析談話会・会長** 中村 洋

**参加申込先**

(現地世話人) 福岡大学薬学部 吉田秀幸

[電話:092-871-6631(内線)6618, E-mail:hyoshida@fukuoka-u.ac.jp]

(全国幹事) 伊藤一明 [E-mail:itok1481@gmail.com]

2026年度LC/MS分析士  
五段認証試験実施のお知らせ

下記要領で実施する予定ですので、お知らせいたします。

**日時** 2026年7月14日(火)14時~15時30分

**会場** 日本分析化学会会議室〔東京都品川区西五反田1-26-2五反田サンハイツ303号室〕

**五段資格のイメージ** 「分析士を育成・指導できるレベル(師範)、論文の査読・指導、学位論文の審査、国際会議において存在価値が評価される質疑応答ができる。」

**分析士五段認証試験** 分析士五段試験では書類選考試験(事前提出)、筆記試験(記述式)および面接試験を総合して合格を決定します。書類選考用資料(体裁は自由)には、①氏名、②生年月日、③現職、④学歴、⑤職歴、⑥LC/MSに関する研究・業務経験、⑦論文発表(適当数)、⑧学位の有無、⑨講習会・講演会における講師等の実績、⑩論文査読の経験、⑪学位論文審査の経験、⑫組織委員・実行委員等の実績、⑬国際会議における座長・依頼講演等の実績、⑭LC/MS分析士四段の登録番号、⑮その他、特記事項、をこの順に記載して1ファイルとし、申込締切日までに下記資料送付先にお送りください(お送りいただいた資料は本認証試験以外の目的には使用しません)。筆記試験には、与えられた課題に対してご自身の考えを問う問題、が出題され45分以内に解答していただきます。面接試験は筆記試験後に30分程度行います。

**受験料** 11,000円(合格者は登録料7,700円を別途申し受けます)

**受験資格** 受験できる方はこれまでに行われたLC/MS分析士四段試験に合格、登録された方に限ります。

**申込方法** ①受験料を銀行振込後、資料送付先に書類選考用資料をメールに添付して提出ください。

**申込締切** 6月30日(火)

**振込銀行口座** りそな銀行五反田支店 普通預金0802349、名義:(公社)日本分析化学会液体クロマトグラフィー研究懇談会。なお、一度振込いただいた受験料は返却しません。試験が中止された場合は、次回の受験料を免除します。

**資料送付先・問合せ先** (公社)日本分析化学会液体クロマトグラフィー研究懇談会・分析士認証試験係  
[E-mail:nakamura@jsac.or.jp]

2026年度LC/MS分析士  
四段認証試験実施のお知らせ

下記要領で実施する予定ですので、お知らせいたします。

**日時** 2026年7月28日(火)14時~15時30分

**会場** 日本分析化学会会議室〔東京都品川区西五反田1-26-2五反田サンハイツ303号室〕

**四段資格のイメージ** 「学会発表、投稿を通して、技術的議論が行え、講習会の講師が務まるレベル。また、当該分析・測定技術に関する英語の文献を適切に理解し、博士の学位に相当する学識経験を有する。」

**分析士四段認証試験** 分析士四段試験では書類選考試験(事前提出)と筆記試験(記述式)とを総合して合格を決定します。書類選考用資料には、①氏名、②生年月日、③現職、④学歴、⑤職歴、⑥LC/MSに関する研究・業務経験、⑦論文

## お知らせ

発表（適当数）、⑧口頭発表（適当数）、⑨学位の有無、⑩LC/MS分析士三段の登録番号、その他、特記事項、をこの順に記載して1ファイルとし、申込締切日までに下記資料送付先にお送りください（お送りいただいた資料は本認証試験以外の目的には使用しません）。筆記試験には、1) 英文和訳問題、2) 与えられた課題に対してご自身の考えを問う問題、の2題が出題され90分以内に解答していただきます。  
**受験料** 9,900円（合格者は登録料6,600円を別途申し受けま

す）  
**受験資格** 受験できる方はこれまでに行われたLC/MS分析士三段試験に合格し、登録された方に限ります。

**申込方法** ①受験料を銀行振込後、資料送付先に書類選考用資料をメールに添付して提出ください。

**申込締切** 7月13日（月）

**振込銀行口座** りそな銀行五反田支店 普通預金0802349、名義：（公社）日本分析化学会液体クロマトグラフィー研究懇談会。なお、一度振込いただいた受験料は返却しません。試験が中止された場合は、次回の受験料を免除します。

**資料送付先・問合せ** （公社）日本分析化学会液体クロマトグラフィー研究懇談会・分析士認証試験係  
[E-mail: nakamura@jsac.or.jp]

—以下の各件は本会が共催・協賛・後援等をする行事です—

◎詳細は主催者のホームページ等でご確認ください。

### 電子機器トータルソリューション展 2026

主催 （一社）日本電子回路工業会

期日 2026年6月10日（水）～12日（金）

会場 東京ビッグサイト東展示棟

ホームページ

<https://www.jpccashow.com/show2026/index.html>

連絡先 電子機器トータルソリューション展 2026 運営事務局  
[電話：03-6675-6809, E-mail: jpcca@shoei-bijutsu.co.jp]

### 第38回バイオメディカル分析科学シンポジウム

主催 BMAS 実行委員会

期日 2026年9月3日（木）・4日（金）

会場 山口東京理科大学

ホームページ

<https://sites.google.com/view/bmas2026>

連絡先 〒756-0884 山口県山陽小野田市大学通1-1-1 山口東京理科大学薬学部 生命物理化学分野 宮本和英  
[E-mail: bmas2026yamaguchi@gmail.com]

### 「分析化学」年間特集“波”論文募集

「分析化学」編集委員会

「分析化学」では2010年より年間特集を企画し、2026年のテーマを「波」と決定しました。

「波」は光の波長と波数を想起させることから、分光分析の基礎および応用についての論文を募集します。例えば以下のような研究について募集を行います。

1) 将来的に分析化学に応用される可能性をもった分光測定法の開発。2) 分光分析による構造解析、定量、微量検出、化学種同定。3) 表面分光・顕微分光による局所測定とイメージング。4) 分光法と類似の情報が得られる中性子や超音波を用いた測定。5) 多変量解析や理論計算による分光測定結果からの情報の抽出。

一方で、「波」は直接、海や川の表面に起こる波を連想させます。本特集においては、海洋や河川の表層または岸辺を対象とした環境分析についても論文を募集します。

本特集に関わる論文は年間を通じてご投稿いただくことが可能で、審査を通過した論文は、単行の特集号を除く「分析化学」第75巻（2026年）合併号の冒頭に掲載する予定です。多くの皆様方からの投稿をお待ちしておりますので、是非この機会をご活用ください。詳細はホームページをご確認ください。  
特集論文原稿締切：2026年4月24日（金）（第3期）

### 「分析化学」特集 “未来を拓く熱分析”の論文募集

「分析化学」編集委員会

「分析化学」編集委員会は、熱分析研究懇談会と共同で「未

来を拓く熱分析」と題した特集を企画しました。熱分析は、「物質の温度を調節されたプログラムに従って変化させながら、その物質の物理的性質を温度（または時間）の関数として測定する一連の技法の総称です。適用範囲は、プラスチック、ゴム、セラミックス、金属、鉱物といった材料分野から、食品、製薬などの製品分野、生体・環境・エネルギー分野と多岐にわたり、およそあらゆる物質を対象としています。対象も手法も日々進化しています。本特集号では、広く熱分析が力を発揮した研究論文の投稿をお待ちしています。奮ってご投稿ください。詳細はホームページをご確認ください。

特集論文申込締切：2026年2月20日（金）

特集論文原稿締切：2026年4月17日（金）

## 「分析化学」の掲載料についてのお知らせ

「分析化学」誌では、2020年4月より論文掲載料を以下の計算式にしたがってお支払いいただき、pdfファイルを進呈することになりました。なお、論文の別刷を希望される場合は、別途別刷頒布料金をお支払いいただくことにより購入することができます。

掲載料金計算式（P：印刷ページ数）（単位：円）

会員の場合：30,000 + 5,000 × (P - 4)（印刷ページ数が14ページ以上は一律80,000円）

会員外の場合：40,000 + 5,000 × (P - 4)（印刷ページ数が14ページ以上は一律90,000円）

\*上記に消費税がかかります。

## ぶんせき誌「技術紹介」の原稿募集

『ぶんせき』編集委員会

分析化学は種々の分野における基盤技術であり、科学や産業の発達・発展だけでなく、安全で豊かな生活の実現に分析機器が大きく貢献してきました。近年の分析機器の高性能化・高度化は目覚ましく、知識や経験がなくても、微量物質の量や特性を測定できるようになりました。この急速な発展は、各企業が持つ高度で多彩な技術やノウハウによって達成されたといっても過言ではありません。一方、高度化された分析機器の性能・機能を十分に発揮させるためには、既存の手法に代わる新規な分析手法が必要であり、高度な分析機器に適合した分析手法や前処理手法の開発が分析者にとって新たな課題となっています。また、分析目的に合致した高純度試薬の開発に加えて、測定環境の整備、試薬や水の取り扱いなどにも十分な配慮が必要です。極微量の試料を分析する際には、測定原理を把握すると共に、手法や操作に関する知識・技能を身に着ける必要があると考えます。

このような背景を鑑み、『ぶんせき』誌では新たな記事として「技術紹介」を企画いたしました。分析機器の特徴や性能、機器開発に関わる技術、そしてその応用例などを紹介・周知することが分析機器の適正な活用、さらなる普及に繋がると考えており、これらに関する企業技術を論じた記事を掲載することといたしました。また、分析機器や分析手法の利用・応用における注意事項、前処理や操作上のコツなども盛り込んだ紹介記事を歓迎いたします。これらの記事を技術紹介集として、『ぶんせき』誌ホームページ内に蓄積することで、様々な分野における研究者や技術者に有用な情報を発信でき、分析化学の発展に貢献できるものと期待しております。分析機器や分析手法の開発・応用に従事されている多くの皆様方からのご投稿をお待ちしております。

記

1. 記事の題目：「技術紹介」
2. 対象：以下のような分析機器、分析手法に関する紹介・解説記事
  - 1) 分析機器の特徴や性能および機器開発に関わる技術、
  - 2) 分析手法の特徴および手法開発に関わる技術、
  - 3) 分析機器および分析手法の応用例、
  - 4) 分析に必要となる試薬や水および雰囲気などに関する情報・解説、
  - 5) 前処理や試料の取扱い等に関する情報・解説・注意事項、
  - 6) その他、分析機器の性能を十分に引き出すために有用な情報など
3. 新規性：本記事の内容に関しては、新規性は一切問いません。新規の装置や技術である必要はなく、既存の装置や技術に関わるもので構いません。また、社会的要求が高いテーマや関連技術については、データや知見の追加などにより繰り返し紹介していただいても構いません。
4. お問い合わせ先：日本分析化学会『ぶんせき』編集委員会  
[E-mail : bunseki@jsac.or.jp]

## 初めて書く論文は母語の日本語で！ “第25回初執筆論文特集”募集のお知らせ

「分析化学」編集委員会

「分析化学」編集委員会は、2026年（第75巻）に第25回「初執筆論文特集」を企画し、下記要領で論文を募集します。卒研究生、修士・博士課程院生並びに若手研究者の方々にとって、ご自分の研究成果を日本語で投稿できるよい機会です。なお、2025年より本特集名を「若手初論文特集」から「初執筆論文特集」と変更しました。年間を通して論文原稿を受け付け、審査を経て掲載可になり次第随時掲載いたしますので、奮ってご投稿ください。

なお、詳細は「分析化学」誌HPをご参照ください。

自分のアイデア、研究成果を自由に表現できる母語の日本語で、初めての学術論文執筆にチャレンジしてください。先生や先輩に指導をいただいて、論文作成法を習得する良いチャンスにもなります。これは大変貴重な経験であり、次の新たなステップにつながることでしょう。このチャンスは一度しかありません。多数の方々からのご投稿をお待ちしております。